

凍結胚移植における

受胎率向上のポイント

(公社) 栃木県獣医師会 産業動物委員会

1 受胚牛の選定

健康で、繁殖成績の良い牛を選定することが重要です。令和6年度に本事業で受胎した牛は全て34か月齢以下でした。明瞭な発情兆候を示し、1.5 cm以上の機能的な黄体を有している牛に移植したいものです。黄体の大きさを確認するために超音波診断装置を使用することは、黄体確認の精度を上げることに有効です。

もし、長期不受胎牛に治療も兼ねて、胚移植をしたい場合には、胚移植だけでなく、人工授精をしておいて7日後に胚移植を行う（追い移植）方法が効果的です。

2 凍結胚の融解

凍結胚の融解は、30℃くらいの温湯で、15秒程度実施します。温度計を使って、できるだけ正確にするとともに、直接、風や太陽光が当たるような場所を避けてください。ストローをボンベから取り出す時も、キャニスターをボンベの口より上に上げないように注意して、ストローを空気中で5秒間保持した後に温湯に入れてください。

3 移植時の注意点

良好な黄体があることを確認してから、尻尾を縛るなどの保定をしたのち、陰部をペーパータオル等で拭き、更にアル綿で清拭します。陰部をお湯や、消毒液で洗う場合には、これらの液が残っていないようにして下さい。特に消毒液が残っていて移植器に付着すると胚にダメージを与える可能性もあります。

伸長式の移植器（YTガン等）を使う場合、子宮角の奥まで入れすぎないでください。黄体側の子宮角に達したら、移植器先端と子宮壁の間に隙間がある状態で、中のチューブを伸ばします。伸びにくい時は移植器を少し手前に引き、チューブの伸びるスペースを確保して、抵抗なく伸びることを確認し、シリンジを静かに押して胚を注入します。

以上、簡単に胚移植のポイントを説明しましたが、改めて基本的なところを再確認していただき、受胎率向上の役に立てれば幸いです。